

3-1. 地縁活動

従来型： 町内会、自治会、老人会等
新 型： 地域協議会等 名称は多様

24

1. 助け合い活動からみた地縁組織の特徴

(1) 近くで生活している人の互助組織

手軽に助け合える

- 手軽に助け合うことへのニーズは大
- 顔を合わせやすく、絆を結びやすい

このメリットを広げるため、近くに集会所を設けたり、気軽に集まれる工夫をし（カフェ、食堂など）、有志の活動を主催し（趣味、体操の会や、謝礼付きの清掃活動など）、また、誰もが関心を持つ活動（自治会主催の葬儀など）を行っている

ただ…

助け合う気のない人や
気の合わない人がいる

- そのため、有志による新型地縁組織
が生まれている

1. 助け合い活動からみた地縁組織の特徴（続）

（2）古くからの知り合いが住んでいる

絆が強い

- 自然な助け合いが行われやすい
- 活動に誘い込みやすい

ただ…

新しく転入してきた人が
絆を結びにくいことがある

- そのため、地域に新住民のグループ
ができ、その仲間で助け合い活動を
始めることがある

2. 従来型の地縁組織を活性化させた事例

■町内会等

鹿児島県鹿屋市 打馬町内会（約550戸）

- ある高齢者からの要望をきっかけに、民生委員の呼びかけに打馬町内会長が応え、公民館を使つてのサロン活動が始まった。活発な活動は地域の多くの高齢者のいきがいととなっているほか、助け合い活動の素地にもなっている
- 平成22年に社協の地域福祉推進事業のモデル地区となり、地域のニーズを調査した結果、「打馬あんしん安全見守り隊」を組織しての見守り・声かけ活動や、電球の取り替え等生活を支援する助け合い活動が始まった
- 平成26年5月、認知症者や家族への支援活動として、鹿屋市内で初の高齢者徘徊模擬訓練を実施するなど、福祉に関する意識が高い

市の人口 約 108,000人
高齢化率 24.80%



2. 従来型の地縁組織を活性化させた事例（続）

沖縄県那覇市 ^{まあじ} 市営真地団地 自治会（約380戸）

- 平成22年、団地の集会所を利用したデイサービスの利用者が女性に偏っていたことから、男性高齢者の地域参加の場を設けるべく毎週金曜日百円でランチを提供する「百金食堂」を開設。口コミで話題になった結果、若い世代や団地外の近隣住民も集まる多世代共生の場となった。夏休みには多くの子どもで賑わっているほか、ボランティアには地域若者サポートステーションや小規模作業所等さまざまな団体が協力している
- 住民の買い物支援のための移動スーパーの招致活動や、移動サービスなどの活動も行っている

市の人口 約 322,500人
高齢化率 19.10%



2. 従来型の地縁組織を活性化させた事例（続）

東京都立川市 都営大山団地 自治会（約1,600戸）

- 女性自治会長がリーダーシップを取り、「全世帯名簿」を作成、高齢者・子どもの見守り、安心コミュニティ形成活動を行っている
- 平成11年、大山MSC（ママさんサポートセンター）を設立し、子育て支援や高齢者支援についても積極的な活動を行っている
- 年平均 30 人位の葬儀がある。自治会メンバーが葬儀ボランティアのメンバーになり、非常に安い費用で自治会葬を行っている。自治会加入率100%

市の人口 約 179,100人
高齢化率 21.40%



2. 従来型の地縁組織を活性化させた事例（続）

かかみがはら
岐阜県各務原市 社協・緑苑連合支部（約2,100戸）

- 高度経済成長期に造成された新興住宅地で、その時期に各地から転入した世代が高齢者となる時期を迎えたため、単身世帯が増加し、ご近所付き合いが希薄で孤立化してしまうケースが一気に増えて、地域の課題となっていた
- 社協・緑苑連合支部では、地域交流通貨「グリーン」による助け合い活動や、絵手紙をお届けする高齢者とのふれあい交流活動などを展開してきたが、さらに一段と広く住民間の交流をはかるため、空き家を借り、常設型の拠点「ふらっと」をオープンした。子育て中の親子の集い、いろいろな趣味を楽しむ集い、手作り料理での食事会、住民の作品 展示を行うなど、幅広く地域住民がふらっと立ち寄れる集いの場となっている

市の人口 約 148,600人
高齢化率 23.20%



2. 従来型の地縁組織を活性化させた事例（続）

【まとめ】 助け合い活動の「開始」に必要な要素

リーダーや住民が創りたい地域像を共有

人的資源

- 求心力と行動力を備えたリーダーの存在
- リーダーを支える仲間の存在
- 問題意識を共有している多数の住民

仕組み・物的資源ほか

- 集会所等、活動の拠点となる場所
- 行政の助成金等、初期活動の原資となる資金

時宜・タイミング

- 災害対応、孤独死の発生等、「危機意識の発生」が、助け合い活動の行動開始のきっかけとなるケースが多い

2. 従来型の地縁組織を活性化させた事例（続）

【まとめ】 助け合い活動の「継続」に有効な要素

人的資源

- 人脈が豊富で企画力に長け、個々人のニーズにしっかり対応できるリーダーの存在
- 継続的にリーダーを支える仲間の存在
- お互いさまの精神を維持し続けている住民

仕組み・物的資源ほか

- 新規転入者を仲間として受け入れる仕組み
- 助け合い以外での日常交流の機会
- 役員の任期を弾力的にする仕組み
- 組織の透明性・健全性の確保のための情報公開
- 地域や行政、企業に働きかけて必要な支援を受ける仕組み（地域の外からの応援を受ける仕組みがあるケースもある）

3. 従来型地縁組織をベースに新型組織をつくった事例

- 町内会・自治会の活動の枠にとらわれず、有志が集まって、テーマ型の助け合い活動の組織をつくっている

あげお

埼玉県 上尾市 尾山台団地自治会（約1,100戸） ⇒ NPO法人ふれあいねっと

- 団地自治会の助け合い活動に対し、団地外の住民からもニーズがあったため、NPO法人を立ち上げた
- 家事援助・子育て支援や付き添い付送迎サービス等を行う会員制組織「たすけあい友の会」の活動をNPO法人に移行したほか、団地内の空き店舗を借り上げて「ふれあい食堂」を開業したり、センサー付電子機器による24時間見守りサービス等の活動を行っている

市の人口 約 228,200人
高齢化率 23.60%



3. 従来型地縁組織をベースに新型組織をつくった事例（続）

北海道登別市 ^{ほろべつてつなん} 幌別鉄南地区町内会（約1,200戸）⇒NPO法人「ゆめみ〜る」

- 町内会の福祉活動の枠を広げ、幅広い地域活動を展開するため、登別市幌別鉄南地区の有志がNPO法人を立ち上げ、旧コンビニエンスストアを改装し、食堂をオープン。広さ40坪。席数60席で、メニューは、手打ちそば、定食、有機栽培コーヒーなど
- 店舗の2階を利用し、高齢者のための「ふれあいいきいきサロン」や、子育て中の親と子どものための「ふれあい子育てサロン」を開いている。毎週土曜日に、店頭で朝市を開いて産地直送の野菜、果物、鮮魚、水産加工品を販売。高齢者の見守りとして配食事業を行い、配食時には声をかけて安否確認

市の人口 約 50,700人
 高齢化率 29.50%



4. 従来型地縁組織とは別に新型組織をつくった事例

■ 自由な形で地域の有志が集まって、組織をつくっている

鹿児島県大和村 ^{やまとそん} ^{なびん} 名音集落（約110戸） 「のんティダの会」

- 平成23年、地域包括支援センターの呼びかけで行った「支え合いマップ」作りが契機となり、男女15人で助け合い組織「名音（のん）太陽（ティダ）の会」を結成した
- 空き倉庫を改修して居場所をつくり、毎週土曜日に定例のサロン「のんティダ喫茶」を開いて地域の交流拠点となっている。また、草刈りや出前散髪などの簡単な家事援助や、「孤独死を一人も出さない」ための見守り活動を黄色の旗を使って行っている

村の人口 約 1,700人
 高齢化率 37.10%



4. 従来型地縁組織とは別に新型組織をつくった事例（続）

ひがしおきたま

山形県東置賜郡川西町吉島地区（約750戸） NPO法人きらりよしじまネットワーク

- 平成14年、5人の住民が地域の将来についての危機意識を共有したことをきっかけに、周囲の住民に働きかけを開始。平成16年、地域にある各種団体が、それぞれに「将来的な会計の一元化と地域全体でのNPO法人格の取得」を決議し、全世帯加入のNPO法人の設立が決定された
- 同年、地域住民が広く参加するためのワークショップを開始、多くの住民が話し合いに参加し、30年先を見据えた地区計画を策定した
- 自治会、商工会、地区社協などもNPO法人の部会の中に組み込まれ、各部会に分かれた組織の中で各種の事業を展開している

町の人口 約 16,600人
 高齢化率 31.14%



4. 従来型地縁組織とは別に新型組織をつくった事例（続）

〔まとめ〕 新型地縁組織をつくるための要件

新型組織がつくられた事例の分析

（共通要件）

住民の間に「助け合い」を広めようとの機運が盛り上がってきているが、従来型組織ではこのニーズに応えられないことが明白な状況

- 従来型組織が新しいニーズに無関心で、これに応えられる見込みが皆無な状況
- 従来型組織の中の有志は新しいニーズに応えたい意思を持つが、従来型組織の会員からの合意を得る見込みがないため、従来型組織としてニーズに応える活動ができない状況
- 従来型組織の中の有志は新しいニーズに応えたい意思を持つが、従来型組織のルールやしきたりにより、そのような活動ができない状況

5. 新型組織の開始を働きかける手順

- ① 従来型組織に新しい助け合い活動をするよう働きかけて成功する見込みがないかを判断
(前出「2. 従来型の地縁組織を活性化させた事例」〔まとめ〕
「助け合い活動の「開始」に必要な要素」(31ページ)が
そろうかどうかを判断)
- ② 住民の間に新型地縁組織をつくりたいニーズが強いのか、新型組織をつくるリーダーがいるかを判断
- ③ どんな新型組織がそのニーズに応えるのにもっとも適切かを判断
 - ・ 従来型組織の有志で、新しい活動をする任意団体・NPOを設立
 - ・ 従来型組織の連合体の有志で、連合体の活動する地域を活動範囲として新しい活動をする任意団体・NPOを設立
 - ・ 従来型組織と無関係に、一定地域の全テーマ型助け合い活動をする新しい組織(任意団体・NPOなど)を設立

5. 新型組織の開始を働きかける手順（続）

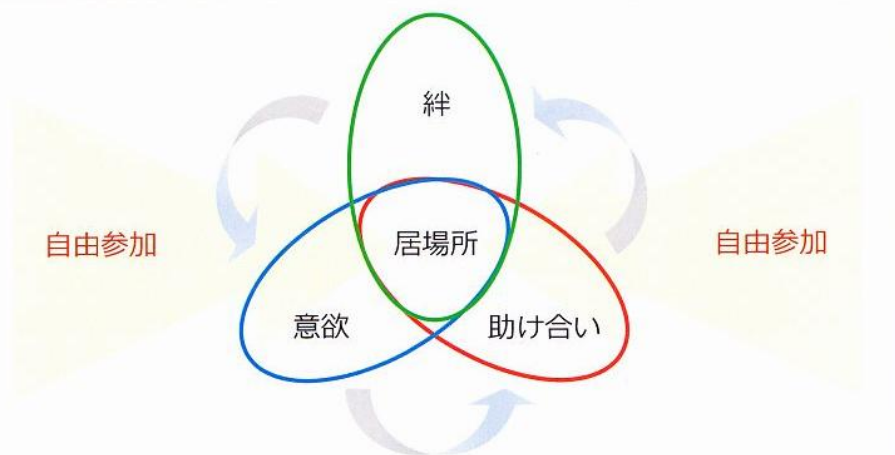
- ④ リーダーが新しい組織・団体をつくるのを支援
 - ・ 設立支援
 - ・ 行政その他の関係機関の理解・支援を得るのを支援
- 従来型組織が活性化する見込みがなく、とって個別に新しい組織・団体をつくる見込みもない時
 - ⇒ 市区町村の首長等に他の地域の事例などを提示して働きかけ、「市区町村の全地域に、新しい地縁組織(地域協議会等)をつくることとし、これを支援するための予算措置も講じる」などの政策を立案、実施するように奨めることも考慮

3-2. 居場所

助け合いの原動力となる共感を生み出すところ

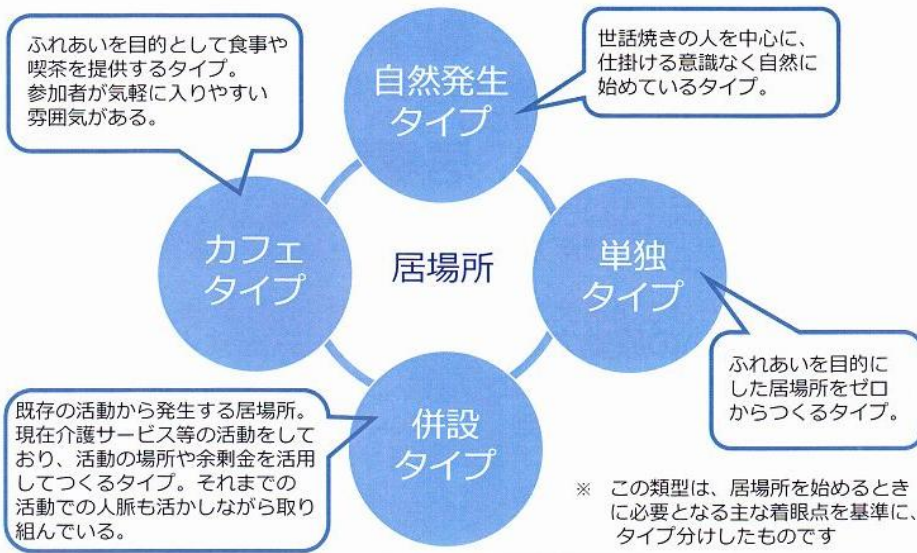
40

1. 居場所とは？



居場所は地域に住む多世代の人々が自由に参加する場所。そこにおける主体的な人との交わりによって生きる意欲が高まり、それぞれの間の絆（共感）が生まれるとともに、それが様々な助け合いに発展する。また、来られなくなった人を訪ねる訪問型居場所になることもある

2. 類型



3. 効果



3. 効果（続）

いきがいが生まれる



要介護4から阿波踊りに参加するまで回復
(83才 脳血管障害、1人暮らしの女性)



ほとんど寝たきりから「歌姫」に
(87才 圧迫骨折の女性)

杖をつかないと立ち上がれなかった
元美容師さんが立ち上がって、
居場所の仲間の髪を切るまでに回復



4. 立ち上げ支援

居場所のニーズが
認められれば・・・

旗振り

例えば、総合計画等
に入れてもらうと、
立ち上げる人が動き
やすくなる

人材を発掘

- 勉強会の開催
実践者を講師にする
ことで、想いが伝わり、
住民の心を動かす

立ち上げる人の 類型選択にアドバイス

立ち上げの支援

- 場所探しの協力
(空き家、空き部屋、空き店舗や
公民館等)
- 当初の設備整備費の調達に協力
- 自治会、老人クラブ、民生委員、
NPOなどつなぐ など

居場所の普及

- 事例集の作成
居場所の普及のため
- 交流会の場を提供
実践者などが集い、情報交換の
できる場をつくることにより、
悩みを解決し、居場所を広げ、
活性化させる

運営の支援

- 保健師等地域の関係者の協力を取り付け
- 保健師は現場で必要な人に居場所の
情報を伝えることができる
- 広報
- 行政が広報することで、住民への信頼性
や認知度が高まる
- 活動保険の費用などの調達に協力する

5. 立ち上げの留意事項

ひと

- 2人からでも、3人からでも始められる

もの

- ベンチが1つあって人が集まりおしゃべりがはじまれば、居場所になる

おかね

- 居場所はまとまった資金がなくても始めることができる

情報

- 参加者を集めるには、特に宣伝はしなくても、口コミで集まってくる人が多い

6. 運営に関するアドバイス

なるべく仕切らないこと！

- みんなが主役。みんながつくる
- テレビはつけない
- プログラムありき、にはしない
- 誰が来ても、「あの人、誰？」という目で見ない



みんなでやることの一例

- ものづくり
- 生き物や植物を育てる
- おいしい食事



3-3. 地域通貨

地縁組織や居場所の助け合いではいまひとつ頼みにくい全テーマ型の助け合いを、会員制で行うための仕組み

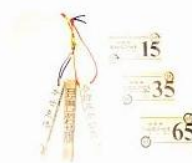
（ある地域内で流通範囲を限定して使用される民間発行の通貨の総称）

48

1. 種別

- **感謝の気持ちを表わす地域通貨**
感謝の気持ちを表わす機能だけを持つ地域通貨
- **時間を単位とする地域通貨（時間通貨）**
人を助けた場合、その助けた時間とほぼ同じ時間、人から助けてもらえるというサービスの互酬性を保証する地域通貨 ※1
- **法定通貨との交換価値を単位とする地域通貨（経済価値交換通貨）**
 - ① 助けられた謝礼として地域通貨を渡し、受取人はこれを直ちに現金または商品と交換でき、又は商品価格の割引きに使える類型
（商品との交換先を特定商店街に限定する時は、地域経済活性化の機能を併せ持つ）
 - ② 時間預託：上記①と時間通貨を組み合わせたもの（次のページ参照）

※1 同じ時間は誰にとっても同じ価値であるという思想に立ち、同じ時間に行うサービスとサービスとを交換するのを仲介するのが時間通貨である



2. 時間預託

- 自分がボランティアとして助けた時間を主催者に預託し、将来、自分が支援を必要としたときに、預託した時間の分、サービス（支援）が受けられる仕組み
- 主催者は、助けられた人が支払った謝礼金を預り金として保管しておき、助けた人が将来支援を求めたとき、その支援をするボランティアをあつせんし、そのボランティアに保管している謝礼金相当分を支払う

【有償ボランティアと時間預託】

- 1990年代、在宅福祉サービスの仕組みとして、有償ボランティアが広がった
- しかし、ボランティアの中には、謝礼金の受領をいさぎよしとしない人たちがいた。有償ボランティアの主催者は、そういう人たちのために謝礼金を保管し、将来その謝礼金を使ってその人たちにサービスを返す仕組みを編み出し、広まったのが時間預託である
- 広まる過程で、預託した時間を家族、友人、知人、生活困窮者のために使ったり預託している謝礼金を共同の行事や主催者に寄付するなど、用途が広がっている

3. 現在日本で使われている地域通貨

表30-1 新設市町村の地域通貨の稼働稼数

	1992年		1999年		2000年		2001年		2002年		2003年	
	稼働	稼働率	稼働	稼働率	稼働	稼働率	稼働	稼働率	稼働	稼働率	稼働	稼働率
北海道	0	14	16	2	16	17	17	17	17	17	17	17
青森県	0	1	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1
岩手県	0	2	4	4	7	7	7	7	7	7	7	7
秋田県	4	4	4	4	6	5	4	4	4	4	4	4
山形県	1	4	4	3	3	3	3	3	3	3	3	3
福島県	7	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
茨城県	5	7	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5
千葉県	0	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
埼玉県	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
東京都	1	3	2	4	5	5	4	4	4	4	4	4
神奈川県	2	3	10	10	11	11	11	11	11	11	11	11
新潟県	3	5	8	10	10	10	10	10	10	10	10	10
東京都	11	16	16	17	17	17	17	17	17	17	17	17
静岡県	2	9	13	14	14	14	14	14	14	14	14	14
愛知県	3	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
岐阜県	1	3	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
山梨県	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
長野県	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
富山県	4	2	2	1	1	1	1	1	1	1	1	1
石川県	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
福井県	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
岐阜県	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
静岡県	6	4	6	5	5	5	5	5	5	5	5	5
愛知県	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
三重県	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
滋賀県	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
京都府	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
大阪府	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
兵庫県	0	0	13	12	12	12	12	12	12	12	12	12
奈良県	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
和歌山県	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
徳島県	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
香川県	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
高知県	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
福岡県	2	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
佐賀県	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
熊本県	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
大分県	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4
宮崎県	0	0	13	12	12	12	12	12	12	12	12	12
鹿児島県	0	0	8	3	3	3	3	3	3	3	3	3
沖縄県	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
稼働率	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1
北海道	0	0	2	3	2	3	2	3	2	3	2	3
青森県	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
岩手県	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
秋田県	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
山形県	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
福島県	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
千葉県	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
埼玉県	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
東京都	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
神奈川県	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
新潟県	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
静岡県	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
愛知県	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
岐阜県	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
山梨県	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
長野県	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
富山県	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
石川県	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
福井県	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
岐阜県	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
愛知県	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
三重県	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
滋賀県	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
京都府	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
大阪府	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
兵庫県	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
奈良県	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
和歌山県	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
徳島県	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
香川県	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
高知県	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
福岡県	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
佐賀県	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
熊本県	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
大分県	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
宮崎県	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
鹿児島県	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
沖縄県	0	0	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
合計	2	134	192	225	225	225	225	225	225	225	225	225

ありがとう
(徳島県藍住町)

おむすび
(北海道中標津町)

平成20年12月稼働している地域通貨は合計 259

周
(静岡県袋井市)

(注) 「地域通貨」 西部忠 (編著) 第29章 「日本における地域通貨制度」 泉留雅より抜粋

4. 世界の地域通貨

助け合いの地域通貨

- タイムダラー（世界各地）
- イタリア時間銀行（イタリア各地）
- レッツ（世界各地）

地域経済活性化型の地域通貨

- トロントダラー（カナダ）
- イサカアワーズ（アメリカ）
- トラロック（メキシコ各地）
- RGT（主にアルゼンチン）

5. 地域通貨の選定

地域全体を見る（地域通貨がニーズに応える手段かを判断する）

- 「3-1地縁活動」で述べた地縁活動を活性化する方策に加えて、地域通貨が必要か
その地域の住民は地縁に基づく日常的な助け合いでは難しい、もう少し重い、継続的な助け合いをしたいと望んでいるか
- 有償ボランティアでなく、地域通貨の方が地域に適合しているか
その助け合いを、お金の直結する有償ボランティアよりも、お金との関係がもう少し薄い、地域通貨という方法で行いたいと望んでいるか
- 住民の気持ちに応え、地域通貨の世話をボランティア精神でやろうという人がいるか

5. 地域通貨の選定（続）

【どの地域通貨が適しているかを判断する一つの基準】

種別	近隣の絆	ある程度濃い ← かなり薄い			
		◎	○	○	○
感謝表示通貨		◎	○	○	○
時間単位の通貨		○	◎	◎	○
経済価値交換通貨		△	△	○	◎

6. 立ち上げのステップ（例）

- ① 理念を確定する
- ② 仲間づくり
- ③ 代表者の決定と事務局の確立
- ④ 通貨の名前の決定・単位の決定
- ⑤ 規約の作成
- ⑥ 事務局に必要なものの準備をする
- ⑦ 取り組みを展開するための組織づくり
- ⑧ 会員を募る
- ⑨ 支援者・組織の拡大
- ⑩ 行政、地元関係組織の理解
- ⑪ 実施の細目検討・施行
- ⑫ 立ち上げ総会の開催